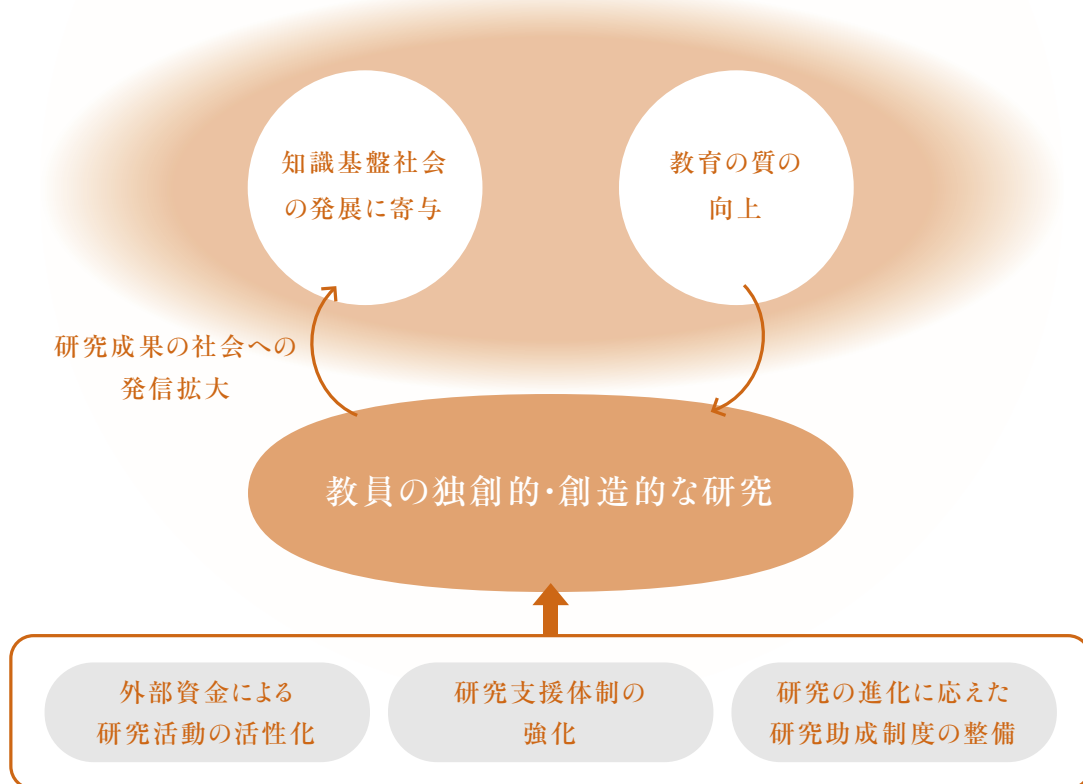


## Ⅱ 研究

### 「研究」の基本方針

中京大学の諸活動の基盤は、教員の独創的・創造的な研究である。教員の研究活動を支援するとともに次代を担う研究者の研究環境を整備することにより、力ある研究を推進する。

研究力の強化により教育の質の向上を実現するとともに、研究成果を広く発信し、知識基盤社会の発展に寄与する。



#### 推進事項1

### 研究成果の社会への発信拡大

教育研究活動データベースは構築されているものの、その目的が各教員に十分に認識されていないことから整備が進んでおらず、研究業績の公開が十分ではない。しかし、個人研究費をはじめ学内のさまざまな研究助成についても、補助金と学費がその原資となっていることから、研究成果は公式ホームページや機関リポジトリを通じて、広く社会に発信し、還元するとともに外部からの評価を真摯に受け止める必要がある。

そこで、この課題の達成度の客観的評価指標として、論文の被引用件数など研究成果の数値目標を設定し、成果の検証、施策の見直しといったPDCAサイクルを実践していかなければならない。

#### 施策

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| ① 研究成果の可視化推進     | ④ シンポジウム・フォーラム・研究会の成果の公開 |
| ② 紀要・論叢・叢書の電子化推進 | ⑤ 紀要・論叢の査読制度の強化          |
| ③ 機関リポジトリの構築・活用  | ⑥ 研究助成制度による研究成果の教育への還元   |

推進事項2

外部資金による研究活動の活性化と支援体制の強化

現在、科学研究費の応募、採択件数が伸びていないが、これは外部資金の獲得、執行など研究を支援する体制が不十分なことに起因しており、支援体制の充実が求められている。今日では、研究活動に果たす外部資金の役割が大きくなり、科学研究費採択件数など外部資金の獲得実績は、大学の研究力を示す指標として社会から注目されているため、高めていく必要がある。

については、研究支援体制を充実するとともに科学研究費採択件数などの数値目標を設定し、成果の検証、施策の見直しといったPDCAサイクルを実践していかなければならない。

施策

- ①外部資金の募集情報の事前把握、申請、執行、報告など支援体制の整備
- ②科学研究費などの申請件数の拡大
- ③科学研究費などの採択件数の拡大
- ④企業・行政・NPOなどとの共同研究の推進
- ⑤特許等知的財産の取り扱い整備

推進事項3

研究の進化に応えた研究助成制度の整備

これまで本学において様々な研究助成制度が整備されてきたが、制度が設けられた時点から年月が経過したことで実態にそぐわなくなってきた。また、各種研究助成制度はそれぞれ異なる委員会で審議されてきたため、これまで研究助成全般に関わる見直しが図られることはなかった。

今後は、研究助成制度全般を取り扱う委員会を設置し、若手研究者や研究成果に基づいた重点的な助成を実現する。

施策

- ①重点配分による研究助成制度の整備
- ②若手研究者に対する研究助成制度の強化
- ③学内外の研究者間の交流推進と助成制度の整備
- ④研究助成全般を担当する委員会の設置
- ⑤研究表彰制度の創設

